

高等学校「理科」におけるパフォーマンス課題

パフォーマンス課題とは「知識やスキルを，リアルな文脈の中で組み合わせて使いこなすことを求めるような課題」のことを示します。

現行の学習指導要領では，各単元の終わりにその単元の内容に関連した探究活動に取り組むことになっています。そこで観察・実験を含むパフォーマンス課題を実施し，生徒に「既習の知識を生かして新たな課題に取り組む」という経験をさせることで，基礎的・基本的な知識及び技能の定着と観察・実験の技能の向上を図ります。さらに，身に付けた知識を複合的に生かすことで，思考力・判断力・表現力等の向上を図ります。

パフォーマンス課題を考えるときには「この課題に取り組むことで生徒のどのような力を伸ばしたいか」「この課題の達成目標は何か」を明確にしておく必要があります。知識を単純に確認するだけの観察・実験，結果を簡単に推測できる観察・実験に留まることのないよう，生徒の実態を踏まえ，課題の中に知識を使って考える場面を設定する必要があります。また，「生徒が考える部分」「生徒同士で話し合う部分」に注目して課題の自由度を工夫することで，評価するポイントを絞ることができます。

パフォーマンス課題の内容は，教科書で学んだ内容を日常生活や実社会で見られる現象と関連付けたものにすることが望ましいですが，科目や単元の性質，生徒の実態等によりそれが難しい場合も，これまで取り組んできた生徒実験の中で，次の三つの場面を設定するよう工夫することにより，課題の趣旨を生かした観察・実験に近づけることができます。

- 細かい解説等を与えられない中で，自ら考えて表現する場面を設定する。
- 「実験での実測値」と「理論上の計算値」とのギャップを考察する場面を設定する。
- 「日常の感覚」と「理論上の世界」とのギャップを考察する場面を設定する。

このウェブページでは，高等学校の物理で7点，化学で8点，生物で4点（そのうち1点はディベート）のパフォーマンス課題を指導事例として掲載していますので，参考にしてください。

なお，愛知県教育委員会が文部科学省から委託されたことを受けて，平成25年度から平成27年度までの3年間にわたり当センターで取り組んできた「高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」の研究報告書（下記URL参照）では，このパフォーマンス課題やルーブリックを用いた評価の実践についてより詳しく掲載しています。また，平成28年度にはその研究成果を踏まえ，学習評価の工夫改善を意識した学習指導のポイントを，小冊子にまとめました（下記URL参照）。ぜひ御覧いただければと思います。

- 研究報告書のダウンロード

http://www.apec.aichi-c.ed.jp/shoko/105syuu/105-1_hyouka/hyouka_index.html

- 小冊子のダウンロード

http://www.apec.aichi-c.ed.jp/shoko/106syuu/106-2_hyouka/28hyouka_2_shiryuu.pdf